

## 管内と畜場における牛胆汁中のカンピロバクター (*Campylobacter jejuni / coli*) 保菌状況調査

橋本亮<sup>1)</sup> 福井聡子<sup>1)</sup> 吉野学<sup>1)</sup> 丸ひろみ<sup>2)</sup>  
小野健司<sup>3)</sup> 片山雅一<sup>4)</sup> 酒井利郎<sup>1)</sup>

1) 千葉県東総食肉衛検 2) 千葉県衛研

3) 千葉県海匠健康福祉センター 4) 千葉県南部家保

### はじめに

カンピロバクター (*Campylobacter jejuni / coli*) (以下、Cj / Cc) は代表的な食中毒起因菌である。近年、と畜場の調査において牛の胆汁等から Cj / Cc が分離されることが報告され、公衆衛生上重要視されている。そこで、今回われわれは管内と畜場に搬入された千葉県内産の牛胆汁中 Cj / Cc 保菌状況を把握する目的で調査を行った。

### 材料および方法

1. 調査期間：2006年2月～7月
2. 材料：管内と畜場に搬入された千葉県内産の牛胆汁 101頭 (22農場)
3. 細菌学的検査
  - (1) 増菌培養：CEM 培地、42℃、24時間、微好気培養
  - (2) 分離培養：CCDA 培地、42℃、48時間、微好気培養
  - (3) 薬剤感受性試験：110株、一濃度ディスク法 (TC、EM、NA、NLFX、OFLX、CPFX)
  - (4) 血清型別：Cj 38株、Penner の方法

### 成績

1. Cj/Cc 分離率：70.3% (Cj 69/101 Cc 2/101)
2. 薬剤感受性：耐性出現率 TC (68.2%)、EM (5.5%)、NA (23.6%)、NLFX (20.9%)、OFLX (19.1%)、CPFX (21.8%)
3. 血清型：A群 (5.3%)、B群 (21.1%)、C群 (15.8%)、D群 (42.1%)、F群 (2.6%)、R群 (5.3%)、U群 (2.6%)、Z5群 (5.3%)

### 考察

牛胆汁中からは Cj を主体とするカンピロバクターが高率に分離された。また、出荷農場のほとんど (21/22) でカンピロバクターが確認された。これらのことから千葉県内の農場にはカンピロバクターが広く浸潤している事が推察された。分離株の薬剤感受性をみると、TC に対して最も耐性を示し、ニューキノロン剤に対しても約 20% の株が耐性を示した。血清型は B 群、C 群、D 群で約 80% を占めていた。同一農場でも複数の血清型が存在したことから、農場への侵入経路は複数あると考えられた。これらの結果から、取り扱い業者に対して衛生管理の徹底と二次汚染防止を指導する必要があると考えられた。胆汁中のカンピロバクターが肝実質内に到達するという報告もあるため、消費者にはカンピロバクター食中毒に対する注意喚起が望まれる。